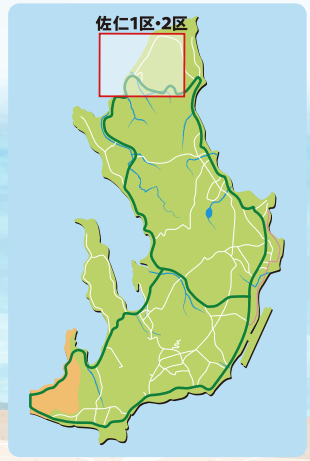
佐仁（さに） Sani

佐仁１区・佐仁２区



佐仁1区看板位置

万歳岩

佐仁地区休憩施設

四季を通じて
夕日が見える佐仁海浜★

佐仁公民館★

4 サンゴの石垣

2 佐仁小学校

3 厳島神社

7 共同井戸

佐仁2区看板位置

5 すず野

6 望楼台★

602

602

楠野

屋仁集落へ

用集落へ

用集落へ

佐仁八月踊り

平成23（2011）年に県の無形民俗文化財に指定。旧暦8月を新しい季節の折り目として「アラセツ＝新節」と「シバサシ＝柴差」の二回、各家々を回って、これからの一年間に火事、災難がないようにとの厄払いや祈祷、先祖の霊を慰める為の行事として八月踊りを踊っている。現在は簡素化され、「種おろし」（豊年祭）の行事も兼ねて最後に六調で締めくくっている。

佐仁小学校（オオゴマダラ飼育観察）

明治12年創立。大正元年現在地に移転。昭和55年には創立100周年記念事業も施行されている。佐仁集落は昔から教育、文化、環境保全等に力を入れ、学校教育と生活環境を融合させ次世代の子供たちに受け継いでいく教育方針が浸透している。2002年頃から環境教育の一環として、学校内で「オオゴマダラ」蝶の生態調査と飼育観察活動にも取り組み、2019年には鹿児島県研究協力校の指定を受け、現在も活動を行っている。

厳島神社

佐仁字当原の台地に祀られている厳島神社は、防御機能をかねそなえたグスク跡と思われる遺跡に建てられている。起源は不明だか、奄美北部に残る平家伝説をみれば、平家の氏神「厳島神社」が建立されていることに関係性を感じる。また神社は時代によって何度か場所を移動しているが、また元の場所に戻り、厳島神社本来の航海の安全を祈る祭神として祭られている。

サンゴの石垣

サンゴの石垣は奄美の原風景を醸し出す宝であり、またその造形は当時の職人の匠技を顧みることができる。昔は防風対策、また宅地の境界にと、集落の随所に見受けられたがブロックの普及とハブの住処になることから近年は少なくなりつつある。

すず野

佐仁集落北側に位置し、東側の高台からは眼下に極めて素晴らしい眺望が展開される。天気が良い日には遠くにトカラ列島の島々を眺めることができる。

丘陵地帯には畑があり、その先に真っ白な砂浜が南北に海岸線を成している。この砂浜はウミガメの産卵場所でもあり、保護活動を行っている。

望楼台

大日本帝国海軍は全国の沿岸要所に海軍望楼を置いていた。用岬から佐仁集落の笠利崎一帯は東側から北側海域一帯を一望でき、遠くを見晴らすことができる。望楼台は黒潮を南下・北上する船を見張っていた場所である。山頂部に円形の土塁が残り、ここからは南に長雲峠の稜線、東に太平洋、西に東シナ海が一望でき、他で味わえない眺望がある。

共同井戸

佐仁集落の山裾には湧水が出る共同井戸が数か所あり、飲料水として使用されていた。また、集落の生活用水は数か所に井戸を掘って貰い水しながら暮らしていた。

飲み水が一番おいしいとされた井戸の水は正月の若水や、豊作祈願のお供え物として利用されていた。井戸のすぐ上には立派な広葉樹の大木が多い茂り、美味しい水を提供していた。

佐仁（さに）※方言名：ショー、サン

奄美の最北端に位置し、楽天的でエネルギッシュな行動性に富む。気質はストゴレ精神「なにくそと負けず嫌いの佐仁根性」と言われ、昔から海、山の幸を活かして料理上手。また、賑やかに楽しむ八月踊りは有名である。